

福澤諭吉著

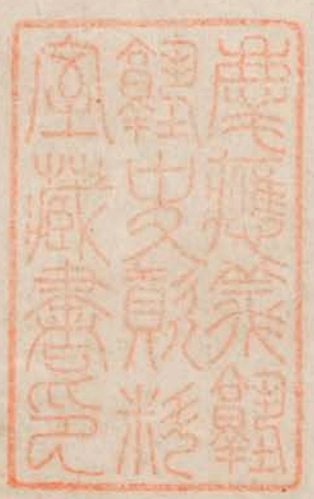
學問

ノス、メ

四編

全

本木



學問ノス、メ四編

學者ノ職分ヲ論ス

福澤論吉



近來竊ニ識者ノ言ヲ聞クニ今後日本ノ盛衰ハ人
智ヲ以テ明ニ計リ難シト雖也到底其獨立ヲ失フ
ノ患ハナカル可シヤ方今目撃スル所ノ勢ニ由テ
次第ニ進歩セハ必ス文明盛大ノ域ニ至ル可シヤ
ト云テコレヲ問フ者アリ或ハ其獨立ノ保ツ可キ
ト否トハ今ヨリ二三十年ヲ過キサレハ明ニコレ
ヲ期スルヲ難カルヘシト云テコレヲ疑フ者アリ
或ハ甚シク此國ヲ蔑視シタル外國人ノ說ニ從ヘ

ハ逆モ日本ノ獨立ハ危シト云テコレヲ難スル者
アリ固ヨリ人ノ説ヲ聞テ遽ニコレヲ信シ我望ヲ
失スルニハ非サレモ畢竟コノ諸説ハ我獨立ノ保
ツ可キト否トニ就テノ疑問ナリ事ニ疑アヲサレ
ハ問ノ由テ起ル可キ理ナシ今試ニ英國ニ行キ貌
利太ノ獨立保ツ可キヤ否ト云テコレヲ問ハ、人
皆笑テ答ル者ナカル可シ其答ル者ナキハ何ソヤ
コレヲ疑ハサレハナリ然ハ則チ我國文明ノ有様
今日ヲ以テ昨日ニ比スレハ或ハ進歩セシニ似タ
ルコトアルモ其結局ニ至テハ未タ一點ノ疑アルヲ
免レス苟モ此國ニ生レテ日本人ノ名アル者ハコ

レニ寒心セサルヲ得ンヤ今我輩モ此國ニ生レテ
日本人ノ名アリ既ニ其名アレハ亦各其分ヲ明ニ
シテ盡ス所ナカル可ラス固ヨリ政ノ字ノ義ニ限
リタル事ヲ爲スハ政府ノ任ナレモ人間ノ事務ニ
ハ政府ノ關ル可ラサルモノモ亦多シ故ニ一國ノ
全體ヲ整理スルニハ人民ト政府ト兩立シテ始テ
其成功ヲ得可キモノナレハ我輩ハ國民タルノ分
限ヲ盡シ政府ハ政府タルノ分限ヲ盡シ互ニ相助
ケ以テ全國ノ獨立ヲ維持セサル可ラス
○都テ物ヲ維持スルニハ力ノ平均ナカル可ラス
譬ヘハ人身ノ如シコレヲ健康ニ保タントスルニ

ハ飲食ナカル可ラス大氣光線ナカル可ラス寒熱
痛痒外ヨリ刺衝シテ内ヨリコレニ應シ以テ一身
ノ働ヲ調和スルナリ今俄ニコノ外物ノ刺衝ヲ去
リ唯生力ノ働ク所ニ任シテコレヲ放頓スルコトア
ラハ人身ノ健康ハ一日モ保ツ可ラス國モ亦然リ
政ハ一國ノ働ナリコノ働ヲ調和シテ國ノ獨立ヲ
保タントスルニハ内ニ政府ノ力アリ外ニ人民ノ
力アリ内外相應シテ其力ヲ平均セサル可ラス故
ニ政府ハ猶生力ノ如ク人民ハ猶外物ノ刺衝ノ如
シ今俄ニコノ刺衝ヲ去リ唯政府ノ働ク所ニ任シ
テコレヲ放頓スルコトアラハ國ノ獨立ハ一日モ保

ツ可ラス苟モ人身窮理ノ義ヲ明ニシ其定則ヲ以
テ一國經濟ノ議論ニ施スコトヲ知ル者ハ此理ヲ疑
フコトナカル可シ

○方今我國ノ形勢ヲ察シ其外國ニ及ハサルモノ
ヲ舉レハ曰學術曰商賣曰法律是ナリ世ノ文明ハ
專ラ此三者ニ關シ三者舉ラサレハ國ノ獨立ヲ得
サルコト識者ヲ俟タスシテ明ナリ然ルニ今我國ニ
於テ一モ其體ヲ成シタルモノナシ

○政府一新ノ時ヨリ在官ノ人物力ヲ盡サハルニ
非ス其才力亦拙劣ナルニ非スト雖此事ヲ行フニ
當リ如何トモス可ラサルノ原因アリテ意ノ如ク

ナラサルモノ多シ其原因トハ人民ノ無知文盲卽
是ナリ政府旣ニ其原因ノ在ル所ヲ知リ頻リニ學
術ヲ勸メ法律ヲ議シ商法ヲ立ルノ道ヲ示ス等或
ハ人民ニ説論シ或ハ自カラ先例ヲ示シ百方其術
ヲ盡スト雖ヒ今日ニ至ルマテ未タ實効ノ舉ルヲ
見ス政府ハ依然タル專制ノ政府人民ハ依然タル
無氣無力ノ愚民ノミ或ハ僅ニ進歩セシコアルモ
コレカタメ勞スル所ノ力ト費ス所ノ金トニ比ス
レハ其奏功見ルニ足ルモノ少ナキハ何ソヤ蓋シ
一國ノ文明ハ獨リ政府ノ力ヲ以テ進ム可キモノ
ニ非ラサルナリ

○人或ハ云ク政府ハ暫ク此愚民ヲ御スルニ一時
ノ術策ヲ用ヒ其智德ノ進ムヲ待テ後ニ自カラ文
明ノ域ニ入ラシムルナリト此説ハ言フ可クシテ
行フ可ラス我全國ノ人民數千百年專制ノ政治ニ
窘メラレ人々其心ニ思フ所ヲ發露スルコト能ハス
欺テ安全ヲ偷ミ詐テ罪ヲ遁レ欺詐術策ハ人生必
需ノ具ト爲リ不識不實ハ日常ノ習慣ト爲リ耻ル
者モナク怪ム者モナク一身ノ廉耻旣ニ地ヲ拂テ
盡キタリ豈國ヲ思フニ遑アランヤ政府ハコノ惡
弊ヲ矯メントシテ益虛威ヲ張リコレヲ嚇シコレ
ヲ叱シ強テ識實ニ移ラシメントシテ却テ益不信

二導キ其事情恰モ火ヲ以テ火ヲ救フカ如シ遂ニ
上下ノ間隔絶シテ各一種無形ノ氣風ヲ成セリ其
氣風トハ所謂ス「スピリット」ナルモノニテ俄ニコレ
ヲ動ス可ラス近日ニ至リ政府ノ外形ハ大ニ改リ
タレトモ其專制抑壓ノ氣風ハ今尚存セリ人民モ稍
權利ヲ得ルニ似タレトモ其卑屈不信ノ氣風ハ依然
トシテ舊ニ異ナラス此氣風ハ無形無體ニシテ遠
ニ一個ノ人ニ就キ一場ノ事ヲ見テ名狀ス可キモ
ノニ非サレトモ其實ノ力ハ甚タ強クシテ世間全體
ノ事跡ニ顯ハル、ヲ見レハ明ニ其虛ニ非サルヲ
知ル可シ試ニ其一ヲ舉テ云ハン今在官ノ人物少

シトセス私ニ其言ヲ聞キ其行ヲ見レハ槩皆闊達
大度ノ士君子ニテ我輩コレヲ間然スル能ハサル
ノミナラス其言行或ハ慕フ可キモノアリ又一方
ヨリ云ヘハ平民ト雖モ悉皆無氣無力ノ愚民ノミ
ニ非ス萬ニ一人ハ公明誠實ノ良民モアル可シ然
ルニ今此士君子政府ニ會シテ政ヲ爲スニ當リ其
爲政ノ事跡ヲ見レハ我輩ノ悦ハサルモノ甚タ多
ク又彼ノ誠實ナル良民モ政府ニ接スレハ忽チ其
節ヲ屈シ偽詐術策以テ官ヲ欺キ嘗テ耻ルモノナ
シ此士君子ニシテ此政ヲ施シ此民ニシテ此賤劣
ニ陷ルハ何ソヤ恰モ一身兩頭アルカ如シ私ニ在

テハ智ナリ官ニ在テハ愚ナリコレヲ散スレハ明
ナリコレヲ集レハ暗ナリ政府ハ衆智者ノ集ル所
ニシテ一愚人ノ事ヲ行フモノト云フ可シ豈怪マ
サルヲ得ンヤ畢竟其然ル由縁ハ彼ノ氣風ナルモ
ノニ制セラレテ人々自カラ一個ノ勸ヲ逞フスル
ヲ能ハサルニ由テ致ス所ナラン乎維新以來政府
ニテ學術法律商賣等ノ道ヲ興サントシテ効驗ナ
キモ其病ノ原因ハ蓋シコ、ニ在ルナリ然ルニ今
一時ノ術ヲ用テ下民ヲ御シ其知徳ノ進ムヲ待ツ
トハ威ヲ以テ人ヲ文明ニ強ニルモノ歟然ラサレ
ハ欺テ善ニ歸セシムルノ策ナル可シ政府威ヲ用

レハ人民ハ僞ヲ以テコレニ應セン政府欺ヲ用レ
ハ人民ハ容ヲ作テコレニ從ハンノミコレヲ上策
ト云フ可ラス假令ヒ其策ハ巧ナルモ文明ノ事實
ニ施シテ益ナカル可シ故ニ云ク世ノ文明ヲ進ム
ルニハ唯政府ノ力ノミニ依頼ス可ラサルナリ
○右所論ヲ以テ考レハ方今我國ノ文明ヲ進ムル
ニハ先ツ彼ノ人心ニ浸潤シタル氣風ヲ一掃セサ
ル可ラスコレヲ一掃スルノ法政府ノ命ヲ以テシ
難シ私ノ説論ヲ以テシ難シ必スシモ人ニ先ツテ
私ニ事ヲ爲シ以テ人民ノ由ル可キ標的ヲ示ス者
ナカル可ラス今此標的ト爲ル可キ人物ヲ求ルニ

農ノ中ニアラス商ノ中ニアラス又和漢ノ學者中
ニモ在ラス其任ニ當ル者ハ唯一種ノ洋學者流ア
ルノミ然ルニ又コレニ依頼ス可ラサルノ事情ア
リ近來此流ノ人漸ク世間ニ増加シ或ハ橫文ヲ講
シ或ハ譯書ヲ讀ミ專ラカヲ盡スニ似タリト雖モ
學者或ハ字ヲ讀テ義ヲ解サ、ル歟或ハ義ヲ解シ
テコレヲ事實ニ施スノ誠意ナキ歟其所業ニ就キ
我輩ノ疑ヲ存スルモノ尠カラス其疑ヲ存スルト
ハ此學者士君子皆官アルヲ知テ私アルヲ知ラス
政府ノ上ニ立ツノ術ヲ知テ政府ノ下ニ居ルノ道
ヲ知ラサルノ一事ナリ畢竟漢學者流ノ惡習ヲ免

カレサルモノニテ恰モ漢ヲ體ニシテ洋ヲ衣ニス
ルカ如シ試ニ其實證ヲ舉テ云ハン方今世ノ洋學
者流ハ槩皆官途ニ就キ私ニ事ヲ爲ス者ハ僅ニ指
ヲ屈スルニ足ラス蓋シ其官ニ在ルハ唯利是レ貪
ルノタメノミニ非ス生來ノ教育ニ先入シテ只管
政府ニ眼ヲ着シ政府ニ非サレハ決シテ事ヲ爲ス
可ラサルモノト思ヒコレニ依頼シテ宿昔靑雲ノ
志ヲ遂ント欲スルノミ或ハ世ニ名望アル大家先
生ト雖モコノ範圍ヲ脱スルヲ得ス其所業或ハ賤
ムヘキニ似タルモ其意ハ深ク咎ルニ足ラス蓋シ
意ノ惡シキニ非ズ唯世間ノ氣風ニ醉テ自カラ知

ラサルナリ名望ヲ得タル士君子ニシテ斯ノ如シ
天下ノ人豈其風ニ倣ハサルヲ得ンヤ青年ノ書生
僅ニ數卷ノ書ヲ讀メハ乃チ官途ニ志シ有志ノ町
人僅ニ數百ノ元金アレハ乃チ官ノ名ヲ假リテ商
賣ヲ行ハントシ學校モ官許ナリ說教モ官許ナリ
牧牛モ官許養蠶モ官許凡ソ民間ノ事業十二七八
ハ官ノ關セサルモノナシ是ヲ以テ世ノ人心益其
風ニ靡キ官ヲ慕ヒ官ヲ賴ミ官ヲ恐レ官ニ諂ヒ毫
モ獨立ノ丹心ヲ發露スル者ナクシテ其醜體見ル
ニ忍ヒサルヲナリ譬ヘハ方今出版ノ新聞紙及ヒ
諸方ノ上書建白ノ類モ其一例ナリ出版ノ條令甚

シク嚴ナルニ非サレトモ新聞紙ノ面ヲ見レハ政府
ノ忌諱ニ觸ル、トハ絶テ載セサルノミナラス官
ニ一毫ノ美事アレハ慢ニコレヲ稱譽シテ其實ニ
過キ恰モ娼妓ノ客ニ媚ルカ如シ又彼ノ上書建白
ヲ見レハ其文常ニ卑劣ヲ極メ妄ニ政府ヲ尊崇ス
ルト鬼神ノ如ク自カラ賤スルト罪人ノ如クシ同
等ノ人間世界ニアル可ラサル虛文ヲ用ヒ恬トシ
テ耻ル者ナシ此文ヲ讀テ其人ヲ想ヘハ唯狂人ヲ
以テ評ス可キノミ然ルニ今コノ新聞紙ヲ出版シ
或ハ政府ニ建白スル者ハ槩皆世ノ洋學者流ニテ
其私ニ就テ見レハ必スシモ娼妓ニ非ス又狂人ニ

モ非ス然ルニ其不識不實斯ノ如キノ甚シキニ至
ル所以ハ未タ世間ニ民權ヲ首唱スル實例ナキヲ
以テ唯彼ノ卑屈ノ氣風ニ制セラレ其氣風ニ雷同
シテ國民ノ本色ヲ見ハシ得サルナリコレヲ槩ス
レハ日本ニハ唯政府アリテ未タ國民アラスト云
フモ可ナリ故ニ云ク人民ノ氣風ヲ一洗シテ世ノ
文明ヲ進ムルニハ今ノ洋學者流ニモ亦依頼ス可
ラサルナリ

○前條所記ノ論說果シテ是ナラハ我國ノ文明ヲ
進メテ其獨立ヲ維持スルハ獨リ政府ノ能スル所
ニ非ス又今ノ洋學者流モ依頼スルニ足ラス必ス

我輩ノ任スル所ニシテ先ツ我ヨリ事ノ端ヲ開キ
愚民ノ先ヲ爲スノミナラス亦彼ノ洋學者流ノ夕
メニ先驅シテ其向フ所ヲ示サ、ル可ラス今我輩
ノ身分ヲ考フルニ其學識固ヨリ淺劣ナリト雖也
洋學ニ志ス、日既ニ久シク此國ニ在テハ中人以
上ノ地位ニアル者ナリ輒近世ノ改革モ若シ我輩
ノ主トシテ始メシ事ニ非サレハ暗ニコレヲ助ケ
成シタルモノナリ或ハ助成ノ力ナキモ其改革ハ
我輩ノ悦フ所ナレハ世ノ人モ亦我輩ヲ目スルニ
改革家流ノ名ヲ以テスル、必セリ既ニ改革家ノ
名アリテ又其身ハ中人以上ノ地位ニ在リ世人或

ハ我輩ノ所業ヲ以テ標的ト爲ス者アル可シ然ハ
則チ今人ニ先ツテ事ヲ爲スハ正ニコレヲ我輩ノ
任ト云フ可キナリ抑モ事ヲ爲スニコレヲ命スル
ハコレヲ論スニ若カスコレヲ論スハ我ヨリ其實
ノ例ヲ示スニ若カス然リ而シテ政府ハ唯命スル
ノ權アルノミコレヲ論シテ實ノ例ヲ示スハ私ノ
事ナレハ我輩先ツ私立ノ地位ヲ占メ或ハ學術ヲ
講シ或ハ商賣ニ從事シ或ハ法律ヲ議シ或ハ書ヲ
著シ或ハ新聞紙ヲ出版スル等凡ソ國民タルノ分
限ニ越ヘサル事ハ忌諱ヲ憚ラスシテコレヲ行ヒ
固ク法ヲ守テ正シク事ヲ處シ或ハ政令信ナラス

シテ曲ヲ被ルコトアラハ我地位ヲ屈セスシテコレ
ヲ論シ恰モ政府ノ頂門ニ一釘ヲ加ヘ舊弊ヲ除テ
民權ヲ恢復センコト方今至急ノ要務ナル可シ固ヨ
リ私立ノ事業ハ多端且コレヲ行フ人ニモ各所長
アルモノナレハ僅ニ數輩ノ學者ニテ悉皆其事ヲ
爲ス可キニ非サレヒ我目的トスル所ハ事ヲ行フ
ノ巧ナルヲ示スニ在ラス唯天下ノ人ニ私立ノ方
向ヲ知ラシメントスルノミ百回ノ説論ヲ費スハ
一回ノ實例ヲ示スニ若カス今我ヨリ私立ノ實例
ヲ示シ人間ノ事業ハ獨リ政府ノ任ニアラス學者
ハ學者ニテ私ニ事ヲ行フ可シ町人ハ町人ニテ私

二事ヲ爲ス可シ政府モ日本ノ政府ナリ人民モ日本ノ人民ナリ政府ハ恐ル可ラス近ツク可シ疑フ可ラス親ム可シトノ趣ヲ知ラシメナハ人民漸ク向フ所ヲ明ニシ上下固有ノ氣風モ次第ニ消滅シテ始メテ眞ノ日本國民ヲ生シ政府ノ玩具タラスシテ政府ノ刺衝ト爲リ學術以下三者モ自カラ其所有ニ歸シテ國民ノカト政府ノカト互ニ相平均シ以テ全國ノ獨立ヲ維持ス可キナリ

○以上論スル所ヲ槩スレハ今ノ世ノ學者此國ノ獨立ヲ助ケ成サントスルニ當テ政府ノ範圍ニ入リ官ニ在テ事ヲ爲スト其範圍ヲ脱シテ私立スル

トノ利害得失ヲ述へ本論ハ私立ニ左袒シタルモノナリ都テ世ノ事物ヲ精シク論スレハ利アラサルモノハ必ス害アリ得アラサルモノハ必ス疾アリ利害得失相半スルモノハアル可ラス我輩固ヨリ爲メニスル所アリテ私立ヲ主張スルニ非ス唯平生ノ所見ヲ證シテコレヲ論シタルノミ世人若シ確證ヲ掲テ此論說ヲ排シ明ニ私立ノ不利ヲ述ル者アラハ余輩ハ悅テコレニ從ヒ天下ノ害ヲ爲スコトナカル可シ

附錄

本論ニ付二三ノ問答アリ依テコレヲ卷末ニ記ス

其一ニ云ク事ヲ爲スハ有力ナル政府ニ依ルノ便
利ニ若カスト答云ク文明ヲ進ムルハ獨リ政府ノ
力ノニニ依頼ス可ラス其辨論既ニ本文ニ明ナリ
且政府ニテ事ヲ爲スハ既ニ數年ノ實驗アレハ未
タ其奏功ヲ見ス或ハ私ノ事モ果シテ其功ヲ期シ
難シト雖ハ議論上ニ於テ明ニ見込アレハコレヲ
試ミサル可ラス未タ試ミスシテ先ツ其成否ヲ疑
フ者ハコレヲ勇者ト云フ可ラス。二ニ云ク政府人
ニ乏シ有力ノ人物政府ヲ離レナハ官務ニ差支ア
ル可シト答云ク決シテ然ラス今ノ政府ハ官員ノ
多キヲ患ルナリ事ヲ簡ニシテ官員ヲ減スレハ其
事務ハヨク整理シテ其人員ハ世間ノ用ヲ爲ス可
シ一舉シテ兩得ナリ故サラニ政府ノ事務ヲ多端
ニシ有用ノ人ヲ取テ無用ノ事ヲ爲サシムルハ策
ノ拙ナルモノト云フ可シ且此人物政府ヲ離ルハ

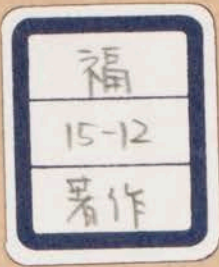
モ去テ外國ニ行クニ非ス日本ニ居テ日本ノ事ヲ
爲スノニ何ソ患ルニ足ラン。三ニ云ク政府ノ外ニ
私立ノ人物集ルテアラハ自カラ政府ノ如クナリ
テ本政府ノ權ヲ落スニ至ラント答云ク此說ハ小
人ノ說ナリ私立ノ人モ在官ノ人モ等シク日本人
ナリ唯地位ヲ異ニシテ事ヲ爲スノニ其實ハ相助
ケテ共ニ全國ノ便利ヲ謀ルモノナレハ敵ニ非ス
眞ノ益友ナリ且コノ私立ノ人物ナル者法ヲ犯ス
テアラハコレヲ罰シテ可ナリ毫モ恐ル、ニ足ラ
ス。四ニ云ク私立セント欲スル人物アルモ官途ヲ
離レバ他ニ活計ノ道ナシト答云ク此言ハ士君子
ノ云フ可キ言ニ非ス既自カラ學者ト唱テ天下ノ
事ヲ患ル者豈無藝ノ人物アラシヤ藝ヲ以テ口ヲ
糊スルハ難キニ非ス且官ニ在テ公務ヲ司ルモ私
ニ居テ業ヲ營ムモ其難易異ナルノ理ナシ若シ官

ノ事務易クシテ其利益私ノ營業ヨリモ多キヲ
ラハ則チ其利益ハ働ノ實ニ過キタルモノト云フ
可シ實ニ過クルノ利ヲ貪ルハ君子ノ爲サル所ナ
リ無藝無能僥倖ニ由テ官途ニ就キ慢ニ給料ヲ貪
テ奢侈ノ資ト爲シ戯ニ天下ノ事ヲ談スル者ハ我
輩ノ友ニ非ス

明治七年一月出版

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 人、事、業、利、益、私、營、業、ヨ、リ、モ、多、キ、ヲ、ラ、ハ、則、チ、其、利、益、ハ、働、ノ、實、ニ、過、キ、タ、ル、モ、ノ、ト、云、フ、可、シ、實、ニ、過、ク、ル、ノ、利、ヲ、貪、ル、ハ、君、子、ノ、爲、サ、ル、所、ナ、リ、無、藝、無、能、僥、倖、ニ、由、テ、官、途、ニ、就、キ、慢、ニ、給、料、ヲ、貪、テ、奢、侈、ノ、資、ト、爲、シ、戯、ニ、天、下、ノ、事、ヲ、談、ス、ル、者、ハ、我、輩、ノ、友、ニ、非、ス、）





明治七年

五月廿日

永島七女